

講義名	日本史A			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

**主題と概要**

テーマ：日本芸能文化史から見た日本史  
 本講義の目的は、日本の歴史の中で「芸能文化史」に視点を置き、その特性を探ることにある。人々が神社や寺院で行事をおこなってきた過程において、日本の芸能文化史にも変遷が生じてきた。そこには、その時代を生きた人々の信仰のかたちが窺える。そこで、15回の講義のうち、前半は主に「神社」の行事、後半は主に「寺院」の行事を具体的に取り上げ、その特色を説明する。そして、日本の歴史の中にその特性を位置付けしながら講義を進める。

**到達目標**

学生が、講義の内容を理解した上で、日本の歴史の中で継承されてきた行事の特色を、自分の言葉で一つ説明できるようになる。

**提出課題**

講義では、毎回、講義内容に関わる感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。このレポート課題の詳細は別途、11月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

毎回の授業に書いてもらう感想文やレポートの内容は、提出後に次の回の講義などで、日本の歴史の事例として紹介する。

**評価の基準**

評価は、平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した15回分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

**履修にあたっての注意・助言他**

- 予習として自分が調べた内容や講義中に大事だと思ふ箇所は、メモをとること。
- 講義中に私語をして、他の人の受講の妨げにならないように注意すること。

**教科書**

.使用しない。

**参考図書**

.なし。

**その他**

<プリント資料>  
 各回毎、プリント資料を配布する。プリント資料は無くなさないように保存すること。  
 <参考文献>  
 講義中に適宜、紹介する。

**授業計画**

講義の進め方の詳細は、教室で行う第1回の講義で説明する。

- 日本史とは
- 日本芸能文化史をどのようにとらえるか
- 神社の起源
- 人々の信仰
- 御祭
- やすらい祭
- 宮座の成立
- 宮座と神事
- 田楽
- 御田植祭
- 田楽の歴史
- 能楽
- 歌舞
- 神楽
- 神楽と地域
- 伎楽の伝承
- 浄土教と人々の信仰
- 念仏の流行
- 浄土教と人々の信仰
- 修正会
- 修正会の歴史
- 寺院の法会
- 兵庫の修正会と鬼
- 寺院の法会
- 大分県の修正会と鬼
- 人形浄瑠璃
- 人形浄瑠璃
- 身近にある日本の歴史

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A.L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習  
 次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べ、また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。  
 講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。  
 (2) 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材  
 ・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)  
 ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)  
 ・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を見出し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)  
 ・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

**実務経験の有無及び活用**

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、日本の歴史や地域の特性を紹介しながら授業を行う。

**備考**

講義の進め方の詳細は、教室で行う第1回の講義で説明する。教室では座席の間隔をあけ、教室の換気や手の消毒を励行し、感染症拡大の防止に努める。

方が、一時的に通学困難になった場合は、授業の資料の配付や課題等の連絡は、個別にメールで連絡し、必ず対応させていただきます。

現在の日本は、様々な時代の積み重ねで成り立っている。そのような多くの情報がつまった歴史の中で、この講義では神社や寺院の歴史にテーマをしぼり、そこで行われる年中行事（伝統芸能や民俗芸能）について考える。多くの日本の歴史の中から、一つの事柄を深く掘り下げて考える機会にしていきたい。